

平成26年度未来経営戦略推進経費
(教学改革推進のためのシステム構築・職員育成に係る取組み) 採択事業

法人名	相愛学園	学校名	相愛大学
------------	-------------	------------	-------------

表題	教学 IR の実施管理体制の確立と戦略の策定におけるデータ活用に向けた取組み
-----------	---

取組みの概略

(1) 目的

本事業では、学長のリーダーシップの下に策定した『相愛大学将来構想』に従って実施する、教育・研究・地域貢献・国際交流等の実施・改善計画に対して、学内に散見する各種データの分析と可視化を行うとともに、これらを積極的に活用することの出来る教員及び事務職員（以下、「教職員」と称す）の育成と全学的なデータ活用に対する意識改革を併せて実現することで、学生・保護者・社会等のニーズに沿った的確な教学改革を実施することを目的とする。

(2) 取組みの概要

上記目的を達成するため、基盤となる情報の収集・分析および改革戦略の策定を実現すべく、新たな分析ツールの導入と、教学 IR コーディネーター（仮称）（以下、「コーディネーター」と称す）を配置する。

現在、副学長兼教育推進本部長を委員長とする「教学 IR 委員会」が、全学の教学改革に資するデータ活用の方針等について検討を重ねているが、今後は委員会とコーディネーター、その活動を補助する事務室との連携を強化することで、円滑なデータの分析と結果の公表を日常化することとする。

また、これらの取組みは全学的に浸透することが重要となるため、2名のコーディネーターを中心とするワーキンググループを立ち上げて、積極的に研修会等を開催することでデータ活用に向けた全学的な意識改革を実現する。

(3) 調査分析するデータの内容と活用方法（教学改革への反映状況）

①現在のデータ内容と教学改革への反映状況

本学では教学改革の実施において参考としているのは、学長室、教学課、入試課、共通教育センター、FD 委員会、学生委員会、学生支援センター等で実施している種々のアンケート・調査のデータである。

それらデータの内容は、学校基本調査を基にした基本情報に加え、入試結果、オープンキャンパス参加者、入試出願状況、進学アクセスオンライン（学生受入れ状況改善活動のための高校及び志願者情報）、新入生アンケート、学生基礎力調査、学生生活実態調査等であり、これらは学生受入れ状況の改善、カリキュラム改革、学生支援の充実のための種々の方策策定・実施に反映されている。

また、ポータルサイトのスチューデントプロフィールにより、学生の出欠・学修（単位取得）・成績状況等の総合的把握が可能で、学業不振・中途退学予防等に活用しているのが現状である。

しかしながら、このデータには、本学の教学改革に資するためのデータとして不足している部分も少なくなく、またそれを教学改革に直結させるための、データ全体を統合した分析、その分析から改善策を導く戦略の策定には至っていないのが現状である。

教学改革の推進のためには、このデータ状況をさらに充実させる必要があり、今後の調査分析は、卒業生を含む全学学生の学力・学修成果・志向態度・将来展望の把握や、学士力や社会人基礎力など現在の大学生に求められている能力の測定を主眼とし、全学的傾向（後述、②）、と学生個人の属人的な状況把握・分析（後述、③）、の両面での複眼的な視点から実施することとする。

②全学的傾向でのデータ活用

本学のポータルサイトにはその基盤となる基幹業務システム・データベースがあり、その中には入試・教学・就職等、学生に関する各種情報を管理する各種サブシステムの他、教員業績・人事・

給与・経理・納付金等の経営管理系のサブシステムも搭載されている。これらの個々のシステムを用いて、関連部署の日常の実務が行われているが、IRの機能でもある「個別テーマの研究」を行う際には、これらのシステムを複数連動させてデータを抽出し、様々な角度からの分析が容易になるよう瞬時にグラフ化等ができるシステムが必要である。本学の基幹業務システムには、現時点ではこのような総合的な分析を行うIR用のシステムが導入されていないため、まずはこの分析ツールシステムを導入・構築し、データの可視化を実現する。

③学生個人の属人的な状況把握・分析

ポータルサイトでは学生に関する諸情報を閲覧・把握することが可能である。しかし一人の学生に関するこれらの情報を同一ページ内で直感的総合的に把握・分析することは難しく、一学生のデータを同一ページ内で表示させ、可視化できるようなシステムが望まれる。また昨今重視されている学生による主体的な学び、あるいはキャリアデザイン教育を支援していくためには、学生自らに自身のページ内に学修の進捗状況や生活状況の記録、キャリアデザインに関する様々な活動等を入力させ、教職員のコメント等もフィードバックさせることによって学生の自己管理能力を向上させるとともに「振り返り」と「気づき」の機会を増やし、教育効果・キャリアアップの意識を高める必要がある。これらの実現にはいわゆる学修ポートフォリオの導入・構築が最適であるが、本学ではその実現に至っていないため、これについても導入・構築を図りたい。

(4) 実施管理体制

現在、IRに関する取組みを統括する組織として「教学IR委員会」が設置されているが、これに調査・統計・分析部門を専ら担当する教職員を加え、機動性をそなえた組織に転換させる。

具体的には、教員1名・事務職員1名の計2名のコーディネーターを「教学IR委員会」の構成員に据えることで、教職協働によるIRの的確な運用と教学改革の体制とする。その後、このコーディネーター2名を中心とするワーキンググループを結成し、教学IR委員会の構成員（教員）と、関連部門から選出された事務職員により、IRを基盤とする教学改革について、広く研修できる体制を整備する。

ワーキンググループのメンバーは、コーディネーターが企画するワーキンググループ研修会（仮称）と学外研修への参加制度を確立することで、コーディネーターからワーキンググループメンバーへ、ワーキンググループメンバーから関連部局・部門へと周知され、全学的共通認識を確立する体制を整備する。

(5) 職員の能力向上に資する取組み

①専門性を有するIR職員に係る現状

本事業を推進するうえで、IRの知見を有しシステムの管理運用も担当できる職員の存在は極めて重要である。現在、これらを担当する組織として、学長の強いリーダーシップのもと、平成24年度に新たに発足させた広報・情報センター事務室がある。また、IRを推進する組織として、平成25年度に発足させた「教学IR委員会」による推進体制を整備しており、委員会の構成員は各学部から選出された教員と教学担当（教学課）職員が中心となっている。なお、データ収集・分析、さらには、その活用に関する専門的知見と技能を有する立場として、広報・情報センター事務室職員も構成員となっているが、すべての構成員が兼務で対応しているのが現状といえる。

②教学IR委員会ならびに関連部門の担当職員の連携強化と能力向上

既述のとおり、本事業を推進するうえでの中心的存在（コーディネーター2名）を確立したうえで、IRの実施とそれに基づく戦略的な改革を学内の共通認識として確立するため、教学IR委員会ならびに関連部門へのFD・SDを強化する。

以上の全学的に実施するものに加え、教学IR委員会の構成メンバーと関連部門より選出された事務職員を構成員とするワーキンググループを結成し、これに対して重点的に実施するワーキンググループ研修会（仮称）を並行して行うこととする。なお、ワーキンググループ研修会では、コーディネーターが中心となり企画する学内研修会の他、他大学の実施体制の視察・システム開発業者主催の研修会（意見交換会）などへの積極的な参加を促して、その能力向上を図ることとする。

③全学的教学改革のためのIRの適切な運用

全学的なIRに対する共通認識を確立するためには、基幹業務システム等への適切なデータの入力

や、学生と教員の双方向的コミュニケーションを要する学修ポートフォリオの適切な運用などが基盤となる。それらを確実に行うことで、全学的小よび学生個人の属人的データによる分析を連動させ、それに基づく全学的教学改革を推進するとともに、学生個人へのきめ細かい支援を実現する。

④情報リテラシー教育

これらの研修は学内における情報リテラシーの向上ならびに、情報セキュリティのレベル向上のために実施する側面を有する。特に学生個人の属人的情報については、その扱いに細心の注意が必要であり、これに関する教育を徹底させるものである。

(6) 目的達成に向けた取組みの全体像

